Title	Introduction to Economic History
Author	長谷川, 淳一
Citation	経済学雑誌. 別冊. 105 巻 1 号
Issue Date	2004-04
ISSN	0451-6281
Type	Learning Material
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学経済学会
Description	

Placed on: Osaka City University Repository

Osaka Metropolitan University

入門科目・経済史入門 （講義資料）

Introduction to Economic History

長谷川淳一

以下は，昨年度の経済史入門での，長谷川担当分の問題です。1部，2部ともにあります。今年度も長谷川担当分について形式は概ね同様ですし，中身もそれなりに重なります。それぞれうしろに解答をつけておきますので，ためしにちょっとやってみてください。問題文中に‘テキスト’と出てきますが，なくてもどうということはありません。

以下の文章中の①～⑯（初出時のみ〔 〕に入れてある）にあてはまる語句等を〔語群〕のa.～z.より選び記号で解答し，それに続くイ.～ヘ.についても記号で解答せよ。

講義で使用したテキストの第5章にあるように，工業化（あるいは技術革新）は，経済や社会のシステムに多大な影響を与えた。ただしそのあり方には，国によってかなりのちがいがみられた。

テキストが主に扱ったアメリカでは，技術革新が，自動車産業界の先駆者の名をとった〔①〕とも呼ばれる大量生産方式に結びつき，それがもたらす〔②〕が巨大企業を生んでいくが，たとえば工業化の先発国〔③〕では，あまり巨大企業が育たなかった。それにはいくつかの要因をあげることができる。

第一に，企業家の考え方がある。そもそも多くが職人層等の低い階級の出身だった③の企業家は，〔④〕資本主義とも呼ばれる考え方だが，得た富をつかって自分の企業をさらに大きくすることよりも，その富で田舎に土地と屋敷を買い，上流階級の生活を模倣していくことをしばしば選んだ。また，市場の性格という点でも③は，19世紀半ばの万国博に出展されたアメリカ製品のような大量生産のもととなる〔⑤〕式の規格化されたものよりも，職人仕事的なものをよしとする傾向が強かった。

③では，工業化の促進を図るという点で長期金融を行なう銀行や，国家がはたした役割も小さかった。この点で銀行や国家が大きな役割をはたし，巨大企業を生む土壌を作った国として〔⑥〕があげられる。たとえば，⑥の銀行は，関係する同一部門の複数企業を合併させて，独占的な巨大企業を生むことを促進した。（〔⑦〕統合とよばれる。これに対し，たとえば鉄鉱石を扱う企業と製鉄業の企業，さらには製鋼を用いる機械産業の企業といった，鉄を媒介として関連するさまざまな部門の企業を合併した形を〔⑧〕統合という。）

工業化のあり方と同様に，1929年10月のアメリカでの株式暴落に端を発する世界大恐慌に対する対応でも，各国は大きなちがいをみせた。たとえば③では，古典的自由主義の経済学の考え方にもとづき，〔⑨〕財政の堅持がもっとも重視された。その結果，1931年には当時の〔⑩〕党マクドナルド政権が，失業給付と公務員給与の削減をめぐって崩壊するといった一大政局にまで発展した。しかしその後も⑨財政は③の国是であり続け，〔⑪〕財政や需要管理といった（③が生んだ世界的な経済学者である）

〔⑫〕流の経済政策がとられるようになるのは，第二次世界大戦後の⑩党アトリー政権の時代になってからと言われる。

一方，アメリカでは，1933年に大統領に就任したルーズベルトによる〔⑬〕政策が展開した。その基調は，積極的な国家介入にあった。中でも，競争を回避し価格の回復を図るための，〔⑭〕にもとづく産業組合の結成や〔⑮〕にもとづく農産物価格の安定化，そして，戦後の日本でも一世を風靡しダム建設事業推進の根拠のひとつとなった〔⑯〕などの公共事業支出がよく知られるところである。

〔語　群〕

a．GATT　b．IMF　c．TVA　d．NIRA　e．AAA　f．イギリス　g．フランス　h．ドイツ　i．マルクス　j．ヒルファーディング　k．フーヴァー　l．ケインズ　m．フォーディズム　n．フロンティア　o．熟練　p．相互依存　q．規模の経済　r．均衡　s．赤字　t．労働　u．自由　v．部品互換　w．水平的　x．垂直的　y．ニューディール　z．ジェントルマン

イ．両大戦間期の大恐慌の特徴にあてはまらないものをひとつ選べ。

a．大量失業が生じた。

b．ブロック化政策がとられた。

c．インフレがすすんだ。

ロ．アメリカで不況が深刻化した要因のひとつに農業部門が脆弱だったことがあげられるが，その説明としてふさわしくないものをひとつ選べ。

a．アメリカでは農業の機械化が伝統的に遅れたため，生産性がまったく上昇しなかった。

b．農作物への需要は非弾力的であるため，価格が下がっても需要がそれほどふえなかった。

c．第一次世界大戦後のヨーロッパでの農業再開で，アメリカの農業市場で供給過剰になった。

ハ．テキスト第6章にでてきた，乗数効果の説明としてふさわしいものをひとつ選べ。

a．所得分配が不平等になること。

b．経済の収縮や拡張は累積的に進行すること。

c．景気は自動的に回復するようなメカニズムのこと。

ニ．テキストでのニューディール政策の評価としてふさわしいものをひとつ選べ。

a．諸政策は経済の回復にとって即座に永続的な効果をもたらした。

b．実業界が前向きにうけとり，当初から労使協調路線をとるようになった。

c．レセフェールの哲学に終止符を打つことになった。

ホ．第二次世界大戦の影響としてふさわしいものをひとつ選べ。

a．アメリカやヨーロッパで，保守主義への回帰がみられた。

b．アメリカやヨーロッパで介入基調の政策が定着した。

c．ブロック化政策が一段とすすんだ。

ヘ．後発国のひとつであるロシア（ソ連）の説明としてふさわしいものをひとつ選べ。

a．大恐慌期には西側諸国同様に，工業生産の減退等になやまされた。

b．第二次世界大戦では，アメリカ等の連合国と激しく戦った。

c．1917年以前から，国家主導の指令経済がみられた。

〔解答〕

①m　②q　③f　④z　⑤v　⑥h　⑦w　⑧x　⑨r　⑩t　⑪s　⑫l　⑬y　⑭d　⑮e　⑯c

イ．c　ロ．a　ハ．b　ニ．c　ホ．b　ヘ．c

以下の文章中の〔1〕～〔21〕にあてはまる語句等を〔語群〕のア．～モ．より選び記号で解答し，それに続く問Aと問Bについても記号で解答せよ。

19世紀末から20世紀初頭のアメリカでは，企業の集中の進行に対して，反〔1〕法の制定といった施策がとられたがあまり効果はなく，むしろ1920年代には企業の巨大化がますます進んだ。そうした中，1929年10月の株式市場の暴落を発端に，大恐慌がアメリカを，そして世界を襲った。

講義で用いたテキストの第6章にあるように，アメリカにおいて不況が深刻化・長期化した要因には，投機的且つ不安定な信用構造，〔2〕な需要に起因する農業部門の衰微，技術的失業といった工業部門の問題点が，まずあげられる。しかも，経済回復・繁栄のカギを握る〔3〕が，利潤期待が〔4〕状況下ではなかなか行なわれず，回復のきっかけが出てこなかった。さらに，失業の激増といった状況下では消費支出も（家計の切りつめの必要等で）減り，それが結局，その消費財部門での〔3〕をさらに減退させ，というふうに，雪だるま式に経済の収縮がすすむ，いわゆる〔5〕効果がもたらされ，不況が長期化・深刻化したのである。

ところで，このアメリカでの不況がなぜグローバルな規模で広まってしまったのかを，アメリカとヨーロッパ（とくに〔6〕と〔7〕・フランス）との関係から考えてみよう。第一次世界大戦の結果，〔6〕は〔7〕やフランスに，〔8〕もあきれるほどの途方もない額の〔9〕を支払わねばならなかった。そこでアメリカがいわば手をさしのべる形で，〔6〕に巨額の〔10〕を提供する。〔6〕はそれに支えられて経済を再建し，〔7〕やフランスに〔9〕を支払う。〔7〕やフランスはそれで，アメリカからの〔11〕を償却する。この図式でもってアメリカとヨーロッパが結び付けられ，経済が安定していた。ところが，アメリカでの不況の発生で〔10〕は一挙にひきあげられ，〔6〕経済は破綻，〔10〕の支払いも滞り，〔7〕やフランスは〔11〕償却ができなくなる，という形で，この経済的安定が瓦解したのである。

さて，大恐慌に直面した各国は，それぞれに異なる対応をしたが，中でも特筆すべきはアメリカの対応であろう。実はアメリカでも〔12〕大統領の頃には，均衡予算の堅持が重視されていたが，その後を継いだ〔13〕大統領によるニューディール政策で，それまでにはなかった施策がとられようとしたのである。テキストではニューディール政策を，市場政策，貨幣政策，財政政策の3つに大別している。とくに注目されてきたのが，市場政策と財政政策であろう。市場政策は，主にニューディール第1期の頃にまずとられたもので，競争から生じる問題を最小にすることを主眼とした介入政策である。具体的には，〔14〕にもとづく〔15〕の結成による競争の回避と生産制限を通じて工業製品価格の回復を，また，〔16〕にもとづく作付制限や政府補償金の支払いによって農産物価格の戦前水準への回復がめざされた。

また，第2期以降本格化する財政政策は，赤字公債を発行し，〔17〕に代表されるような巨額の公共事業を行ない，それによって〔18〕を人為的に創出し，国内市場の拡大を通じて不況から脱出しようというものであった。当初は，一時的な〔19〕政策であった政府支出は，とくに第3期以降になると〔20〕政府支出として，恒常的な〔3〕のフローを形成すべきものとみなされるようになった。アメリカでも，ハンセンに代表される公共投資理論があったが，ニューディールの思想にもっとも力を与えたとしてテキストが強調するのが，〔8〕の著作『〔21〕』（1936年）である。

〔語　群〕

ア．自動調節　イ．有効需要　ウ．大量失業

エ. 非弾力的　オ. 補整的　カ. 所得　キ. 投資　ク. 大きい　ケ. 小さい　コ. 乗数　サ. 呼び水　シ. ヒルファーディング　ス. ミュルダール　セ. ルーズベルト　ソ. ケネディー　タ. トラスト　チ. 短期資本　ツ. スタグフレーション　テ. 産業組合　ト. 資本論　ナ. ロシア（ソ連）　ニ. スウェーデン　ヌ. 金融資本論　ネ. 一般理論　ノ. 戦債（戦時債務）　ハ. 賠償金　ヒ. ケインズ　フ. FRB　ヘ. イギリス　ホ. TVA　マ. フーヴァー　ミ. AAA　ム. ドイツ　メ. IMF　モ. NIRA

問A　問題文中の〔6〕および〔7〕には国名が入るが，それぞれの工業化の説明としてもっとも適するものを以下から選び，記号で答えよ。

a. 農業国として生き残れた半面，石炭等の資源に恵まれず，蒸気力の使用もおそく，工業化では相対的におくれをとった。

b. 土地もふくめ資源に恵まれ，農業と工業が同時に進展し，均質的な市場が展開した。

c. 工業化の先発国ではあるが，大量生産方式にはうまくのれなかった。

d. 工業化に際し，金融機関や国家の役割が顕著であった。

問B　問題文中の〔6〕および〔7〕の国が，大恐慌に際してから第二次世界大戦の勃発までにたどった道について，それぞれもっとも適するものを以下から選び，記号で答えよ。

a. 革新政権が，ヨーロッパでのニューディールになぞらえられる政策に取り組もうとした。

b. 均衡財政の堅持に固執し，失業給付の削減等を行なったが，それが重大政局につながりもした。

c. 革新政権と労働組合の間に亀裂が生じ，結局，ファシズム政権が誕生した。

d. 社会主義体制の下，すでに1928年から開始していた5カ年計画によって，むしろ工業生産を伸ばした。

[解答]

〔1〕タ　〔2〕エ　〔3〕キ　〔4〕ケ　〔5〕コ　〔6〕ム　〔7〕ヘ　〔8〕ヒ　〔9〕ハ　〔10〕チ　〔11〕ノ　〔12〕マ　〔13〕セ　〔14〕モ　〔15〕テ　〔16〕ミ　〔17〕ホ　〔18〕イ　〔19〕サ　〔20〕オ　〔21〕ネ

問A　〔6〕d　〔7〕c

問B　〔6〕c　〔7〕b